

東亞天文協會觀測部月報

黃道光課報告 (7,8月分)

幹事 淺野英之助

先頃西日本を襲つた未曾有の颱風は、恰も協同觀測終了直後であつたが觀測の不成績どころの問題でなく災害最も甚だしかつた近畿地方各觀測者の安否を氣遣ふたのであつたが、幸に各地とも異常なく心から喜んだことであつた。其節丁寧な御見舞狀を賜つた諸君に謹んで御禮申上げる。

× × ×

本年7,8月の黃道光及び對日照觀測概況

1. 觀測者及び觀測數

觀測者	略符	觀測地	7月	8月		合計
			黃道光	黃道光	對日照	
稻垣武五	In	ダバオ, パラオ間		1		1
廣瀬永治郎	Hr	岐阜縣美濃町	1	3		4
本田實	Hd	鳥取縣八東村		2		2
淺野英之助	As	山口縣長府町		1	1	2

2. 觀測日時 (* 對日照 △ 日本時刻)

略符	日	時	略符	日	時
Hr	7月 2日	21h 9m	As	* 8月 15日	22h 35m
〃	8月 10日	2 55	Hr	〃 17日	3 15
Hd	〃 12日	3 20	Hd	〃 18日	3 40
Hr	〃 13日	3 31	In	△ 〃 〃	4 50
As	〃 〃	3 50			

3. 7月の觀測

僅かに復活の廣瀬氏に依つて西天が得られたのみ、既に地平線に對して甚しく傾斜してゐるために S-Out line は V V Ind. である。明るさも甚だ淡い。

4. 8月の觀測

前月に續き本月も亦一體に惡天候のため各觀測者の熱心にも拘らず、餘り好成績が得られなかつたことは残念である。

10日の廣瀨氏、12日の本田氏共に銀河以西に稍々淡く廣く大きく見てゐられる。前者は細き光帶を、後者は稍々巾廣き光帶を共に魚座、水瓶座の邊迄認めてゐる。13日は廣瀨氏と淺野の觀測があり、廣瀨氏は少々淡く淺野は甚だ明るく見てゐるのは如何にも矛盾する如く當時疑問を持たれてゐたのであつたが、スケッチを送られて初めて氷解した。

17日の快時には廣瀨氏は甚だ幅廣く(離角 57° に於て 51°)且つ光帶をも取つてゐられる。18日の稻垣氏の觀測は——氏の No. 1 である——裏南洋ダバオ、バラオ間に於けるものである。同日本田氏の觀測は最良夜の故か光帶は延びて西の地平線まで長橋の如く見事なものが取られてゐる。黃道光の明るさも相當である。氏は確かに良き觀測者の一人である。

5. 對日照の觀測

8月15日に今夏最初の觀測が淺野によつてなされた。甚だ見難くゞはあつたが直徑 10° 程の様に淡い灰白色の圓形である。光帶は東西いづれにも認められなかつた。中心點は反太陽點より少しく西北へずれてゐる。

10月11日の觀測可能日

黃道光

西天——宵の觀測は1日——10日頃まで及び月末24日——30日頃まで可能である。未だ銀河が低部に残つてゐるが漸次黃道光は明るさも増し見易くなるであらう。比較銀河は LC。

東天——曉の觀測は6日——19日頃まで可能である。早起は次第に辛くなるが銀河の妨げなく觀測の愉快な頃である。比較銀河は前月同様 M。

對日照——上旬中旬は觀測可能である。バーナード氏の言ふ所に依れば上旬から中旬へ急激な變化をするといふ、諸君の努力により究めたい。

今秋來協同觀測が行はれてゐるが、適當な時期に急報を發するつもりである。

●黃道光觀測を始められたい方は觀測部員に限らず遠慮なく申出られたい、參考文獻を進呈する。

黃道光に関する研究斷片

黃道光課 淺野英之助

●下保氏の「黃道光の光輝の週期的變化」

“科學”8月號に發表されたもので我が國の觀測より統計的研究が試みられ、光輝は増光が急で減光が緩であるがこの増光の急なのは銀河の影響でこの妨害を取り去ると光輝の變化は Sin-wave で表はされる。地平線と黃道との角度は日出沒時では春秋分で極大極小となる Sin-wave であるが黃道光の光輝の Maximum は夕方のは春分より40日早く曉のは秋分より40日遅れる、これは觀測時刻が日出沒時と1h40m位違ふのと最光輝部が地上14°位の所にあるので40日のずれを生ずるので黃道光の光輝は黃道と地平線上14°の所の平行線との角度の大小に正しく比例することを述べられてあるもので、黃道光自體の消長及び光度分布の問題は割愛されてゐる。全文は幹事宛申込まれ、ば抜刷を進呈する。

●次に荒木課長より送られたニュースに依れば P. A. 誌 No. 417 にスミス氏が次の如き意見を述べてゐる。

5月末から6月にかけて宵の黃道光が漸次減光するのは geometrical condition に依るのみではなく他の原因があるに相違ない、と二三の觀測者は主張するが、少し調べてみるとそうではなくて只 geometrical condition のみに依るとしてよい様だ。即ち3月21日宵の薄明直後北緯40°の地點で見られる様な丁度地平線上の而かも黃道上光軸上の點は離角約37°である。であるから6月には黃道が傾斜してゐるために地平線上の部分の高度が低いばかりでなく、3月の薄明直後に著しく明るかつた内部強光部が全く地平線下にあるといふことになる。↑

●C. T. Elvey 氏の Ap. J. 誌 (Vol. 80 No. 1) に寄せられた「黃道光の色の光電觀測」なる一文を拙譯の上有志者間に回覽中、希望者は申込まれたし、

1935年天文略曆(天界十月號所載別刷)を御希望の方は郵券5錢御送り下されば御捌ち致します。

東亞天文協會事務室

變光星課報告 (20)

小山 秋 雄

9月中の観測數

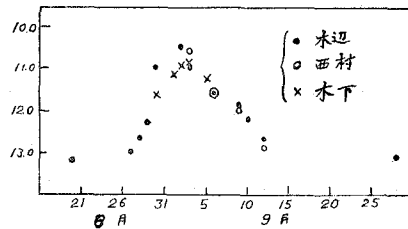
星 名	今津 (吹田) 績	木邊 (滋賀) 成磨	加藤 (大阪) 孝一	西村 (京都) 繁二郎	沓掛 (長野) 七二	金田 (京都) 弘倫	木下 (愛媛) 謙	勝浦 (ブラジル) 茂雄	高井 (京都) 博典
V Aquilae	—	7	—	—	—	—	—	—	—
UU	—	2	—	—	—	—	—	—	—
VZ	—	1	—	—	—	—	—	—	—
RW Aurigae	—	2	—	—	—	—	—	—	—
SS	—	—	—	—	—	—	—	—	—
l Carinae	—	—	—	—	—	—	—	5	—
ρ Cassiopeiae	5	—	—	—	—	—	—	—	—
ο Ceti	—	1	—	—	—	—	—	—	—
T	—	—	1	—	—	—	—	—	—
U Cygni	—	—	8	—	—	—	—	—	9
W	7	—	—	—	—	7	1	—	6
SS	7	5	—	—	—	—	6	—	—
δ Cephei	—	—	—	—	—	3	—	—	—
R Coronae	5	—	8	—	—	1	2	—	—
S Geminorum	—	—	—	—	—	1	—	—	—
U Herculis	—	—	—	—	—	5	—	—	—
R Hydrae	—	—	—	—	—	6	—	5	—
β Lyrae	—	5	—	—	—	—	—	—	12
V Ophiuchi	3	—	—	—	—	—	—	—	—
RS	—	2	—	—	1	—	—	—	—
R Pegasi	4	3	—	3	2	4	6	—	5
S	—	—	—	—	—	—	4	—	—
RU	—	7	—	4	—	—	5	—	—
UV Persei	—	2	—	—	—	—	—	—	—
W Sagittarii	—	—	—	—	—	1	—	—	—
X	—	—	—	—	—	1	—	—	—
R Scuti	5	—	7	—	—	—	—	—	—
N Velorum	—	—	—	—	—	—	—	5	—
合 計	36	37	24	7	3	29	24	15	32

9月は悪天氣の爲、報告數は割合少なかつた。勝浦氏の報告は7月の分である。尙先月號の本報告の表には可成大きな誤植があつた。

正誤 天界十月號第465頁の變星觀測豫報の處で ラレ座 ラ星の極小

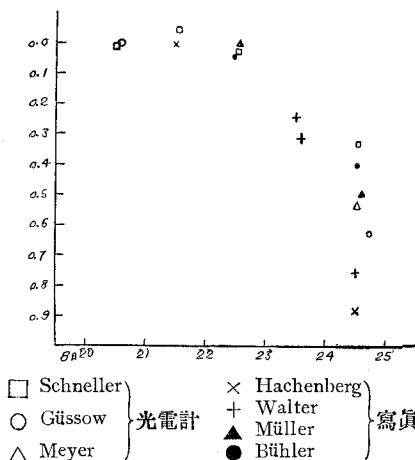
日とあるはウシ座の誤りにつき訂正しておきます。(編輯)

ペガサス座 RU 星の極大



ぎよしき座ゼータ星減光す

本誌8月號所載の如く、グテニク臺長は此の星の食の開始を豫報したが、近着のB.Z. 誌によると、獨國の諸天文臺で見事その事が確められた。グテニク臺長指導の下に、ベルリンのバベルスベルヒ天文臺で、光電計で光度、色指數の測定及スペクトルの觀測を行つたのを始め、ウオルフ アドルフでは



光電計、ポツダム、シュツトガルト、ケーニヒスベルヒ、ポーランドのザイルノ等では写真で減光が捕へられた。即ち別圖の如く、8月22日の朝方はまだ平常光度であつたが、24日の夜中にはもう極小光度に完全に下つてゐた。そして残念な事には、獨國でも23日の夜は曇つて、僅かケーニヒスベルヒで減光の途中を觀測したに過ぎなかつた。又8月15日にはカルシウム

のK線が出現し、次第に強くなつた。即ち食の前8日にK型主星の大氣の後にB型伴星が入り始めた事になる。(10月5日)

掩蔽課

九月は曇天雨天が多くて掩蔽觀測は全く出来なかつた、その上二十一日の大風害以來、使用望遠鏡の何れも觀測不能になつたので、本課では机上の計算をなすのみで、其後暫らくは觀測は拱手傍然の態であるが、回復するまでは致し方ない。地方の課員で觀測された方は本誌前月號までに種々述べておいた事柄を承知の上報告してもらひたい。(高城)

昭和九年五六兩月の流星課報告

課長 小 楨 孝 二 郎

五月及六月の觀測には、特に南米に於ける觀測者の活動が目覺しかつた。勝浦君の五月の觀測は實に25時間にも上つてゐる。又新たに大窪文秀君の参加を得たのは大いに意を強くするものである。同君は強度の近視眼なるにも拘らず、堂々たる成績を舉げられてゐる。

水瓶座の流星群

本田、勝浦、大窪の三君によつて觀測せられた。勝浦君は5日晝一時間半の觀測より、同群に屬する流星8個を捕へてゐる。猶南米に於ける勝浦、大窪兩君の結果によれば、水瓶座の出現は5日より引つゞき5月中旬(15~16日頃)迄追跡せられてゐる。これは今迄に見ない成功と認めねばならない。勝浦君は不確ながら輻射點の東方移動を認められてゐる。今迄この流星群は本流星課では數回觀測されてゐるものであるが、いつも早くから襲ひ來る薄明の爲に充分な成績を得られなかつたのである。今回南米の方々が流星に努力せらるゝに至つて、かくの如き流星群(日本に於て春~夏季夜明前に觀測すべき流星群)の觀測が大いに有望になつたわけである。南米の方々の居られるところは南緯20度位であるから日本内地(北緯35度附近として)よりも70分も日出が遅い。今迄 New Zealand の McIntosh 氏等がこの種の流星群に顯著な成績を舉げてゐたが、今後は我が南米の同胞によつて完全な觀測を遂げてもらひたいものである。

其他の流星群

五月14日~16日に大窪、勝浦兩君によつて南魚座 α 附近に一流星群を觀測されたが、あまり顯著なものではない。輻射點の位置は赤經 340度南緯 30度である。これも兩君が南半球に活動せられる賜であらうと思ふ。南緯30度の流星群では日本では餘程條件が悪い。

大窪君は五月中旬より下旬に亘つて冠座に流星群をみとめてゐられるが、あまり明瞭でない。

六月18日には本田君によつてペガス α 附近に、22日には吉井君によつて山羊座 δ 附近に夫々一流星群を觀測してゐられるが、流星數は少い。

六月20日~22日に亘つて勝浦君は實度々附近($\alpha=15^\circ$, $\delta=+5^\circ$)に流星群を認められた。同群に屬する流星は白色又は黃白色で、速度は Rapid、痕を残すものを若干含んでゐる。光度は2等乃至4等で、あまり明るいものではない。

太陽課 黑點相對數報告 (1934年九月)

觀測者(觀測地)	松本(臺灣臺中高女)	山田(山口縣柳井町)	日野(愛媛縣新居郡)	改發(神戸市須磨區)	荏部(神戸市灘區)	伊達(兵庫縣雲雀丘)	井澤(大阪府市岡中學)	北村(大阪府市外布施)	前田(京都市下京區)	龜井(花山天文臺)	木邊(滋賀縣中里村)	三澤(長野縣上諏訪)	沓掛(長野縣青木村)	清水(靜岡縣島田町)	森久保(橫濱市中區)	淺居(橫濱保土谷區)	水谷(東京市本郷區)	稻垣(東京市芝區)	山根(東京市澁谷區)	千葉(岩手縣水澤町)	下保(札幌市豐平町)
鏡徑耗	50	75	98	150	75	36	110	50	70	55	73	73	102	100	35	27	38	75	44	50	58
倍率	40	48	69	68	77	55	92	62	40	64	60	83	75	73	50	50	50	30	43	50	4
1	曇	曇	曇	雨	曇	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	雨	雨	雨	雨	雨	雨	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
29	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
平均	2	3	0	4	3	4	2	4	3	3	4	5	3	1	0	4	2	4	3	2	2
日數	26	13	15	27	13	7	16	22	11	14	16	13	14	13	13	7	13	9	11	25	25

天氣が非常に悪い。三澤氏さへ此月は16日しか觀測してゐない。然るに松本、荏部、下保三氏が何れも25日以上以上の成績を擧げてゐられるのは嬉しい。○總計22名の觀測者の分布を地圖に畫いて見ると、南九州と、岡山香川附近と、仙臺方面と、朝鮮と、滿洲とに、新觀測者がほしい。